令和５年度　愛媛県立松山北高等学校第75回卒業証書授与式　式辞

令和６．３．１

今年の冬は、季節外れの暖かい日が続き、例年よりも早く吹いた春一番など、早い春の訪れを感じる今日この頃、春の陽だまりの暖かさと春風が優しく感じられる佳き日に、多くの御来賓や保護者の皆様にお集まりいただき、誠にありがとうございます。また、50年の歳月を経て卒業された23回、24回、25回の同窓生の皆様にも、４年ぶりにお集まりいただき、心から感謝申し上げます。

さらに、御紹介した大先輩の皆様方には、半世紀にわたり本校卒業生として誇りを持ち、各分野でご活躍いただき、その御功績に心からの敬意を表します。本日、皆様とともに愛媛県立松山北高等学校第75回卒業証書授与式を挙行できますことは、この上ない喜びであり、この特別な日を卒業生と共にお祝いしたいと思います。

本日、松山北高等学校は349名の卒業生を送り出すことになりました。卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

保護者の皆様には、コロナ禍という困難な状況下が４年間も続きましたが、その間、温かく見守り、支えていただき、心から感謝申し上げます。お子様の卒業式に臨む姿を見て、感慨もひとしおと思います。同時に、卒業生とともに、教職員一同、御家族の皆様に感謝を捧げる日であることを強く感じております。

お子様の成長を喜び、励ましながら、時には厳しく、時には一緒に悩み、支えていただいた御家族の優しさと献身的な御努力に、心から尊敬の念を抱きますとともに、深く感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さんは、中学３年から高校３年間の青春時代のど真ん中に、コロナ禍を最初から最後まで経験した世代でした。中学３年生でコロナ禍に直面し、学校行事や様々なスポーツ・文化的行事の多くが中止になり、混乱の一年間を乗り越えて高校に入学しました。入学式も刻一刻と状況が変わる中で実施され、その後も先行きが見えない不自由な学校生活が続きました。しかし、本校で新たに出会った仲間と支え合い、多様な価値観や創造力を学び、工夫と柔軟な発想で新たな可能性を探りながら、挑戦し続けた高校生活によって、人間的な成長を感じています。

皆さんへ先輩たちにも贈った歌を紹介したいと思います。明治の詩人、与謝野晶子が歌集『草の夢』で詠んだ歌です。

「劫初（ごうしょ）より　つくりいとなむ殿堂に　われも黄金（こがね）の　釘一つ打つ」

第75回卒業生の皆さん一人一人が駆け抜けた３年間の高校生活は、本校の123年間の長い歴史においては、小さな一本の釘のような存在かもしれません。しかし、先輩たちにも誇ることができ、輝かしい軌跡として後輩たちにもはっきりと見せてくれました。皆さんが頑張った高校生活を感謝の気持ちを込めて、少しだけ振り返らせてください。

まず、入学以来、先輩たちの姿を見て学んだ挨拶の姿勢は、心がこもっており、温かい気持ちになりました。自然体で立ち止まってしてくれる挨拶の輪が広がる景色は、毎日が清々しく気持ちよかったです。ありがとうございました。

「城北高女」の生徒22名が殉職した８月５日の祥月命日に行う「殉職女子学徒追憶之碑」の清掃活動をはじめ、興居島を中心に環境保全活動などに取り組む「愛Landまつやま」や家庭クラブによる幅広いボランティア活動など、地域貢献のために積極的に参画していた奉仕の心や思いやりの心を持った行動力には頭が下がる思いです。ありがとうございました。

コロナ禍で歌えなくなっていた校歌や応援歌を、グループ長を中心に卒業生の皆さんが熱い気持ちでリードし歌って復活させてくれました。また、昨年の夏には、野球応援の声出しにも大きな力を発揮し、仲間の絆や友情の大切さを見せてくれました。ありがとうございました。

文化部の皆さんが中島分校の生徒とともに協力し合いながら、５月にこの県民文化会館で芸術文化発表会を開催し、本校独自の表現の場を復活させてくれました。他校の生徒も楽しく鑑賞できた微笑ましいステージに大きな拍手を送ります。

全ての部が目標を達成し、上位成績を収めたわけではありませんが、プレッシャーと戦いながら、各会場で松山北高校の誇りを背負って、優勝候補や強豪校を相手に本気にさせ、慌てさせた北高の底力や存在感、また、より質の高い作品づくりへのこだわりや創造性、専門の指導者がいなくても堂々と上位に進出した努力と果敢な挑戦、体力の限界まで仲間と支えながら、ワンプレーに集中し、力尽きるまで戦った姿勢にも称賛の拍手を送りたいと思います。

大きな大会や発表の場で、練習試合や各種大会でいつもできていた普段どおりの力を発揮する難しさを経験した皆さんもいたと思いますが、高い目標を設定して毎日の努力を積み上げる姿勢や地道な努力を、先輩として背中で見せてくれました。皆さんの後輩たちは、感謝の気持ちを、春からのシーズンで必ず結果で答えてくれると信じています。皆さんが見せてくれた無言の教えに心から感謝したと思います。

卒業生の皆さんの進路実現はまだ途中ですが、混乱の１年生からスタートしたにもかかわらず、目標を明確にし、休日や家庭で地道に勉学に向かった努力が、結果として出ようとしています。後々まで、語り継がれるような学年になろうとしています。最後まであきらめないで挑戦し、陸上競技部が見せたマイルリレーや総合優勝を象徴するような「松山北高校生は持っている」真の実力があると信じています。最後には自ら目指したものが必ず掴めるようにみんなで応援しています。費やした時間は、人として大きく成長できる貴重な財産になりますので頑張ってください。

皆さんが生き生きと過ごした躍動感あふれる学校生活は、語り尽くせないほどたくさんあり、様々な場面で、校訓「文　武　心」の生き方を後輩たちに確かな道標として残してくれました。ありがとうございました。

松山北高校には、「北斗」や「北辰」という表現が様々なところに使われていま

す。校友会誌「北斗」の表紙を開ければ、古い時代、大洋を航海する時、北斗七星を探し、北極星を求め、決定した如く、吾々の人生航路も一つの目標を定め一路邁進すると書かれています。

今、巣立ちゆく皆さんの未来は、大きな可能性もあれば、困難や試練に直面することもあると思いますが、北斗の星を見上げ、目標に向かって道筋を定めてブレることなく、一歩ずつ信念を持って前に歩んでください。皆さんが高校時代に積み重ねた努力に、心から拍手を送り、その前途が、豊かで輝かしいものになることを祈って、式辞といたします。

令和六年三月一日

愛媛県立松山北高等学校長　　友澤　義弘